

大阪北梅田ロータリークラブ様

大阪府レスリング協会の活動報告について

2022年5月30日(月)
大阪府レスリング協会
会長 村上勝

始めに

- 大阪北梅田ロータリークラブ様 (岸本健之亮会長) に大阪府レスリング協会の活動をプレゼンしました。
- ロータリークラブのメンバーは数年でかなり新しいメンバーが加わります。それ故、大半のメンバーが大阪府レスリング協会の少年少女に協賛している意義の認識が薄くなっていますので、大阪府レスリング協会はレスリング競技の魅力をプレゼンしてロータリークラブの会員の方々に協賛のご理解を頂きました。
- ロータリークラブの折衝は主に西尾副会長が担当しました。



大阪北梅田ロータリークラブの皆様
(岸本健之亮会長)

レジュメ

- 大阪府レスリング協会の活動報告について
 - ① 日本のレスリング歴史について
 - ② 日本のレスリング界
 - ③ 日本の少年少女レスリング
 - ④大阪府レスリング協会について
 - 少年少女レスリング選手の育成について
 - 審判員から見た少年少女レスリング
 - 少年少女レスリングからステップアップしてみた世界

村上 勝 略歴

- 昭和19年12月生
- 昭和44年 関西大学卒業
- 昭和46年 株式会社大広入社
- 平成14年 同社取締役就任
- 平成18年 同社専務取締役就任
東京築地ロータリークラブ入会
- 平成22年 株式会社大広退社
- 平成24年 大阪府レスリング協会会長就任

レスリングの歴史について

- レスリングは1938年 ペンシルベニア大学の考古学者 スパエイサー博士がメソポタミアで2人が組合う姿が描かれている石板と銅板を発見。
紀元前3000年以前のものとして、ナイル河畔の都市ベニハッサンの墓壁にレスリングの群像が刻まれていた。
つまりこの頃すでにスポーツとしてレスリングの地位が確立されていた。
紀元前776年アテネでスタートした古代オリンピックでは708年大会からレスリングが採用された。
主要競技の一つとなったその後『レスリング選手』は若い男性の美しさの代表とされた。
- ヘレニズム時代からギリシャ・ローマ時代を向かえる頃徐々に変化し、レスリング競技は多額の賞金目当の職業選手のものとなり、競技内容も野蛮となった。⁶

レスリングの歴史について

- ローマ人は従来のレスリングに加えて、新しい規則を制定した。これが現在のグレコ・ローマンスタイルの原型といわれている。グレコローマンとはギリシャとローマの事。
ただしこれは現在のグレコローマンスタイルとは随分異ったもの言われている。現行のグレコ・ローマンスタイル1860年頃フランスの格闘技学校で考案されたもので、型のグレコローマンとは似て非なるものをいれている。
ヨーロッパが騎士(KNIGHT)制度の時代に入ると、レスリングは騎士が身につける必修の技として奨励された。
- 16世紀に火器が出現し戦争の形が一変することによってレスリングは純粋な競技として戦争の戦いから競技へと変化した。

レスリングの歴史について

- やがてイギリスで全身のどこを使ってもよい 関節技を含めたレスリングが生まれた。
その後アメリカに渡って関節技を排除した、いわゆるフリースタイルレスリングが発生しました。
- 近代オリンピックもレスリングは1回アテネ大会(1896年)から正式種目として認められている。
最初は今日のような型や体重による区別なく、また他競技を掛け持ちで出場する選手が多かった。
- アテネ大会の金メダリストはドイツのカール・シュートマン選手で、彼はなんと同時に体操競技でも金メダを取りました。

レスリングの歴史について

- 1904年のセントルイスオリンピック大会ではフリースタイルの試合のみで7階級で行われた。
1908年ロンドン大会以降はフリースタイル、グレコローマンスタイルが行われた。
- 2004年アテネ大会から女子レスリング競技が始まりました。
- 2021年東京大会は男子フリー 6階級、グレコ6階級、女子6階級。

日本のレスリング界

- レスリングという競技はオリンピックの場で日本と深く結びついている「お家芸」と言うか「日本はオリンピックでのレスリング頼り」と言っても差しつかえない。
- その第一歩は「大正時代」に印された。日本レスリング協会の設立8年前の事です。

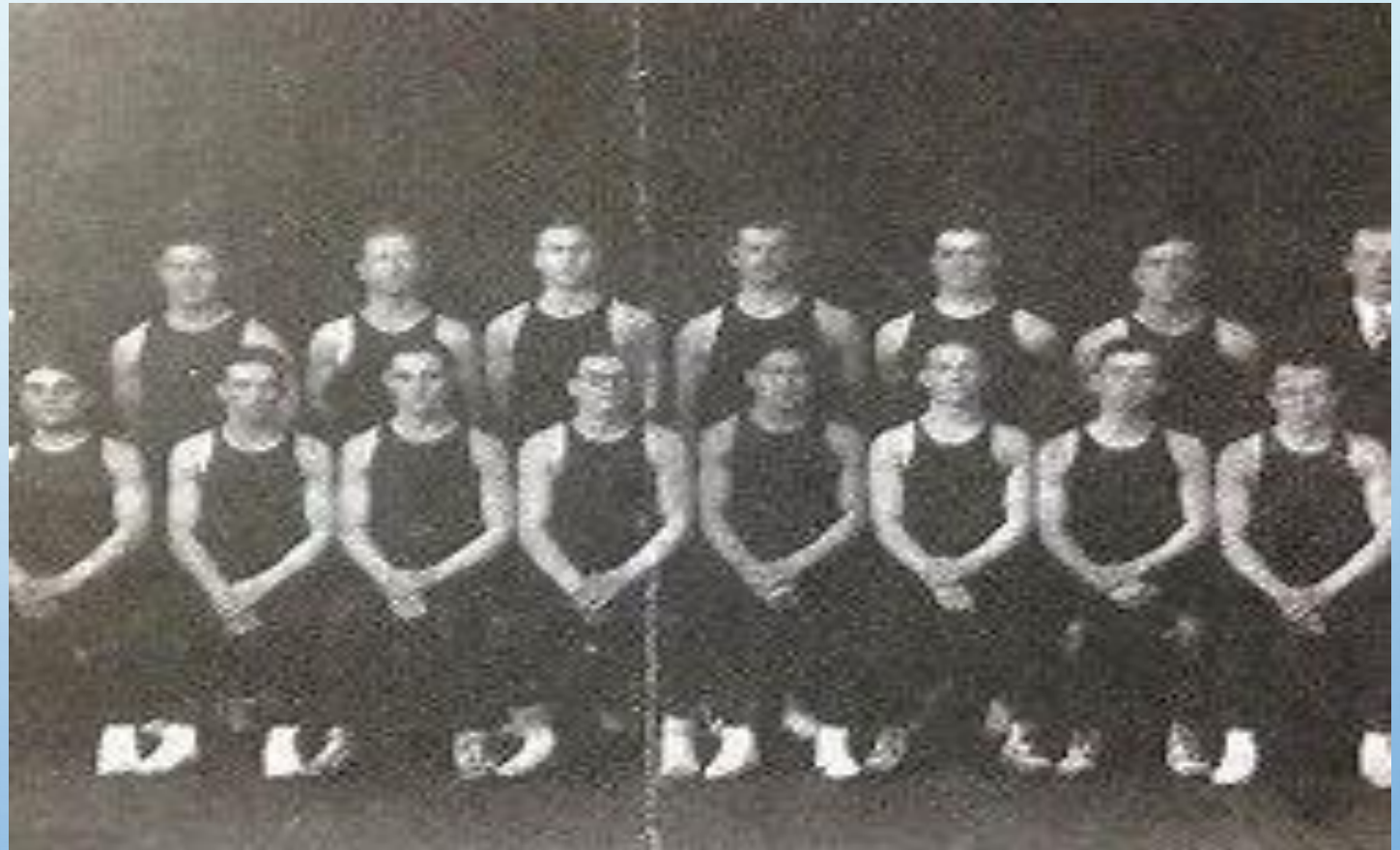
日本のレスリング界

- 1924年(大正13年)にパリオリンピックが開かれ、日本から陸上、水泳、テニスなど19選手が参加。そこにレスリング選手が含まれていた。

米ペンシルベニア州立大に留学していた 内藤克俊がアメリカからパリに行き代表チームに加った。

日本のレスラーとして初めてのオリンピック 出場しフリースタイルのフェザー級でなんと銅メダルを獲得する。

内藤克俊氏

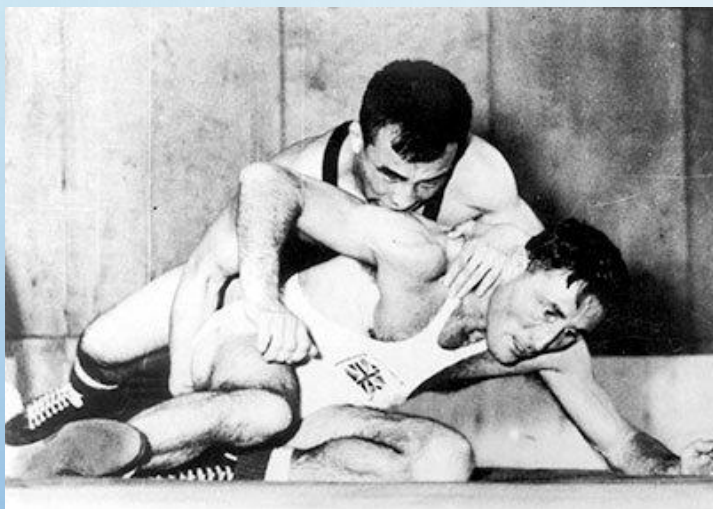


日本のレスリング界

- 1924年パリオリンピックでレスリングで銅メダルを獲得した7年後、1931年に早稲田大学にレスリング部が創設され、その翌年に大日本アマチュアレスリング協会が誕生した。
パリ大会の内藤選手の銅メダルは日本唯一のメダルであり歴史的快挙であった。
その後は1932年のロサンゼルスオリンピック大会 から 多くのレスリング選手が参加することとなった。

日本のレスリング界

1952年ヘルシンキオリンピックで石井庄八選手が金メダルを取ったのを皮切りに次々とメダルを獲得することとなりました。



金メダル37個 メダル総数75個獲得、このメダル数は日本が獲得した全メダル数の15.3%となります

日本レスリング協会出典

日本のレスリング界



- これ程のオリンピックのメダルを獲得するのに最も貢献したのはあの有名な八田一朗さんと言っても過言ではない。
- 八田一朗さんの偉大さは1950年代から80年代の間に金メダルだけでも20個獲得した 抜群の成績です 日本の現在までの金メダル総数は37個です 戦後間もなく日本レスリング協会の会長となり 八田会長は先頭に立って世界を驚かせた躍進の原動力となった。
- 八田一朗イズムと言えば「根性」「スパルタ訓練」やとっぴな強化策が 語られてきました。動物園でライオンとにらめっこ、きき手の反対の手で食事をさせる。

日本のレスリング界

- 夜中にたたき起こして、そしてすぐに寝かせる。電気をつけたまま寝かせる。つまりどんな環境でも睡眠を取り、どんな時間でも試合の準備が出来る。これ等はある意味での話題作りとなりました。当時あまり注目されていないレスリングを盛り上げる八田氏得意の話題作りの面もあったのではないか。八田一郎氏の指導の本質は実は合理的で科学的であった。当時のスポーツ界は「負けた事の反省で、次に向かう」のが通例でしたが選手に対して「負けた理由を探すな」をモットーにあらゆる方策を使ってどんな状況でも力を出し切れる「心技体」を作る前向きな選手となる様指導した。審判のせいで負けた、体調や環境のせいで負けた、など他のせいにすることは絶対禁句でした。

日本のレスリング界

- 八田一朗氏のこのような方策で選手達に、何があっても動じない強さを身につけさせた。

この八田式訓練により日本レスラーは大舞台になればなるほど、強さを発揮することとなり、永い日本のレスリングの黄金時代を築きました。

日本のレスリング界



• 日本レスリング発展のもう一人の功労者は前日本レスリング協会会長の福田富昭氏 協会役員の時いち早く女子レスリングの可能性に着目した。

- ① 日本女子選手を育てる
- ② 女子レスリングをオリンピック種目にする。

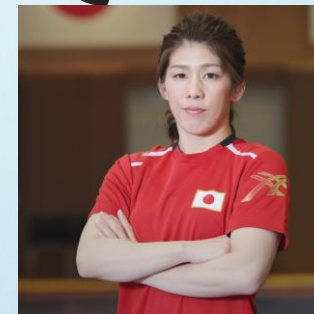
結果 2004年アテネ大会女子レスリング オリンピック種目となる。
アテネオリンピック大会から東京オリンピックまでメダル数20個 金メダル15個の獲得 という驚異的な成績を出す。

日本のレスリング界

- この成果はレスリングのみならず 日本のスポーツ史にも特筆される。

一世紀近く内藤克俊選手が見通していたように、日本レスリングは進化し続けている。それには世界と違う「何か」があった。すなわち八田一郎氏・福田富昭氏の様に新しい発想と独自の方向性を検索し続けこれを実戦に活かした。

日本の少年少女レスリングについて



- 日本のレスリングがオリンピックで
総メダル数76個(金 37個・銀22個・銅17個)を獲得している。吉田沙保里公式サイトより
2004年のアテネオリンピックの頃から2021年の 東京オリンピックのメダリスト
の大部分は少年少女レスリングの出身者となっております。
- 女子は2004年のアテネオリンピックでの伊調千春・馨姉妹・吉田・浜口を始め
東京オリンピック迄、20個のメダルを獲得していますが全員が少年少女レスリ
ングの出身者です。



画：村上勝

■プロフィール

浜口 京子(はまぐち きょうこ)

1978年1月11日

東京都台東区出身の女子レスリング選手。

父・アニマル浜口が経営するアニマル浜口レスリング道場で父の指導のもとボディビルのトレーニングをするようになり、プロレスラー志望の男性選手に混ざって14歳からアマレスを始める。

その後、女子アマレス重量級のトップ選手として活躍し全日本選手権・世界選手権等で優勝を重ね、2004年のアテネオリンピックに女子レスリング72kg級の代表として出場し、銅メダルを獲得した。

* 浜口京子オフィシャルサイト引用

日本の少年少女レスリングについて

- あらゆるスポーツの競技開始年齢が若年化している中 日本レスリングは一層の注目と支援が必要です。

今やジュニアの時に、スキル、体力、柔軟性、戦術を身につける必要があり、体が完成してレスリングのスキルを体得するのは困難です。

日本の少年少女レスリングについて

- 現在日本全国にジュニアクラブは285団体、4000人のキッズレスラーがいます (日本レスリング人口9000人) これは日本レスリングの底辺が如に広いが、これが日本レスリングの強さの原動力となっています。
近畿ブロックには37の少年少女レスリングクラブがあります。
大阪府には13クラブあります。
- リオデジャネイロオリンピック銀メダルの樋口黎選手 (吹田少年少女レスリング連盟出身)をはじめ、世界選手、世界ジュニア選手権で優勝、入賞者を7名排出しております

大阪府レスリング協会・オリンピック・世界選手権入賞者7名

2016年 リオデジャネイロ・オリンピック準優勝

樋口 黎

日本体育大学

世界選手権、入賞者

女子

1992年	フランス大会	優勝	坂本 涼子	現芦屋学園指導者
1999年	スウェーデン大会	優勝	正田 綾子	現網野高校教諭
2005年	ハンガリー大会	優勝	正田 綾子	現網野高校教諭
2006年	中国大会	優勝	正田 綾子	現網野高校教諭
2008年	日本大会	優勝	正田 綾子	殿堂入り
2009年	デンマーク大会	優勝	西牧 未央	(ミオ)
2021年	ノルウェー大会	3位	南條 早映	(サエ) 学生

男子

2006年	中国大会	3位	高塚 紀行	自衛隊
-------	------	----	-------	-----

ジュニア世界選手権、入賞者

女子

2005年	リトアニア大会	優勝	西牧 未央
2006年	グアテマラ大会	優勝	西牧 未央
2011年	ルーマニア大会	優勝	伊藤有梨香
2017年	フィンランド大会	優勝	南條 早映
2019年	エストニア大会	優勝	南條 早映

日本の少年少女レスリングについて

- あらゆるスポーツの競技開始年齢が若年化している中 日本レスリングは一層の注目と支援が必要です。

今やジュニアの時に、スキル、体力、柔軟性、戦術を身につける必要があり、体が完成してレスリングのスキルを体得するのは困難です。

大阪府レスリング協会について

- 大阪府レスリング協会は少年少女のレスリングから中学生 高校生 大学生 社会人に至るまでレスリング競技に励み、愛する選手の方々に充実した楽しいレスリング競技の環境をつくるために役割っています。

大阪府レスリング協会について

- 大阪府レスリング協会に所属する各少年少女レスリング連盟が催す、少年少女大会を側面から応援し、充実したものに導く少年少女の団体は大阪府下に13団体があります。全国的に見てもかなりレベルの高い活動であり実績も大変高い。
今後各連盟が未就学児童、小学生にアマチュアスポーツとしての正しいレスリングの普及発展をはかると共に、心身の健全な発展に寄与し育成に努める。

大阪府レスリング協会 理事一覧

【役職名】		【氏名】
会長		村上 勝
副会長		西尾 秀明
		福田 耕治
理事長	事務局長	芦田 隆治
副理事長	会計担当	櫻井 次郎
	競技担当	上 誠一
常任理事		姫路 文博
		比与森 正志
		萩原 理実
		長尾 由香里
		米田 一彦
		綾井 俊行
		東谷 英由
		木村 雅昭
		内山 一栄
		竹中 伸行
		宮田 有恒
		佐藤 一生
		山口 育孝
	広報委員長	田下 由美

第一回大阪府マスタースレスリング大会開催



平成29年11月26日 泉佐野市総合体育館(J:COM末広)



宣誓、私たち大阪マスターズは、自分の体力の限界を
しっかり頭に置いて、決して無理せず見栄を張らず、
無駄なプライドは捨て、今日この日のために老体に
ムチ打って練習してきた成果を発揮できるよう
力の限り戦うことを誓います。

平成29年11月26日 選手代表 長尾由香里 (近大クラブ)



最年長今村房雄さん
(千葉・柏クラブ)



2018年第35回 全国少年少女レスリング選手権

- 開催日 : 2018年7月27日～29日
- 開催地 : 舞洲スーパーアリーナ(府民共済アリーナ)
- 出場選手 : 1,000～1,200名
- 観客動員数 : 4,000～6,000名
- 過去開催 : 2002年第19回全国少年少女レスリング選手権

舞洲スーパーアリーナ

ご協賛賜り、有難うございました。

2022年5月30日(月)卓話 大阪府レスリング協会一同(榮野様と)



長尾由香里 有元信吾 宮田有恒 村上勝 西尾直之

ご清聴有難うございました。
今後とも大阪府レスリング協会のご支援の程、宜しくお願い致します。

以上

あしがき

- ロータリークラブの卓話にご招待をうけ、1時間お話しをさせて頂きました。岸本会長、会員の皆様はレスリングのお話しを熱心に聴いて頂きました。
- 卓話後も田中次期会長から茨木大会出席時の感想もお話しされました。ロビー活動は大成功、大変盛り上がりました。
- やはり、このようにロータリークラブの会長・次期会長などと定期的にレスリング活動の報告と、ご支援の御礼を行うことによるお互いのコミュニケーションの向上につながることの再確認を致しました。